

## NITS オンライン動画視聴後の「振り返りシート」 <校内研修シリーズ>

### 【No122:特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援 I】

#### Step.1:スライドなどで以下の様な問題を提示し、基礎的な知識の確認を行う。(3問程度)

- (1) 例えば「IQ130 以上を示した者を、特異な才能のある児童生徒とする」と一律に決めると、どんな問題が生じる可能性があるでしょうか。次の下線部に答えを書きましょう。

---

- (2) 教師が児童生徒の才能特性を把握するためには、知能検査や学力テスト以外に、何を評価手段とすればいいでしょうか。またその結果、能力以外にどんな才能の側面が把握できるでしょうか？次の下線部に答えを書きましょう。

---

- (3) 次の文の 2 箇所の空欄 A、B に、各々適切な語句を記入しましょう。

「才能による困難」が表れるメカニズムとして、子どもがおかれた学習環境で提供されるもの次第で、OE（超活動性）が適応的に働けば [ A ] 等が生じるが、不適応に働けば [ B ] などの問題行動が生じる場合もある。

A \_\_\_\_\_

B \_\_\_\_\_

#### Step.2:以下の様な問題を提示し、回答内容についてグループで検討を行ったり、実際の指導例を持ち寄り、再検討したりする。(1 問程度)

わたしたちの学校の児童生徒のなかで、特定の「才能のきらめき」を見せながら、学習や友達との関係で何らかの困難を抱えたり、学校に不適応になってしまったりする子どもがいるとしたら、その子どもは具体的にどのような様子を示しているでしょうか。才能面と困難面の行動や特性について、また本人や周りの人がどのように困っているのか、例を挙げてみましょう。(その子どもたちのために何ができるかは、第 2 回の Step.2 で検討していただきます。)